

吉澤さんの解説を聞きながら植物の生理機能を学ぶ受講者たち



植物の営み 学び深める

Mウイングで年間講座

光合成ってどうなってるの？植物ホルモンって何？

植物の生理機能を一年かけて学習する教養講座「植物の不思議を学ぶ会」が本年度、松本市のMウイングで開かれていた。日本植物生理学会員で松本自然観察会理事の吉澤国雄さん(79)＝安曇野市三郷明盛＝が、植物をより深く理解する機会にと企画。植物の内側で起こっている成長の営みや繁殖のメカニズムなど目からうろこの内容に、受講者たちは興味津々だ。

今月開かれた第2回は花芽の形成や開花のメカニズムを学んだ。

花芽形成の諸条件となる夜の長さや植物の「体内時計」の働きについて吉澤さんが解説。「植物はどこで時間や温度を感じるんだろう」と受講者は感心した様子で聞き入った。三つのホメオステイク遺伝子の発現の組み合わせでがくや花びら、雄しべや雌しべができること、植物病原細菌ファイトプラズマ

によって花の葉化や緑化が起ることも学んだ。

受講した安曇野市の女性(79)は「漠然と目にしている植物の奥深さを知ると見方が変わる。面白いし楽しい」と笑顔を見せた。「本来は文系の人間」と話す吉澤さんは還暦を過ぎてから、松本自然観察会で植物を学ぶようになり「花の名前を覚えるだけでは飽き足らなくなった」。独学で植物生理学を学び理解を深めてきたという。「植物には人間が考えもしない知恵や工夫がいっぱい。長い年月かけて形成された不思議に接して」と話している。

毎月第2火曜日午前10時～11時半。申し込みは午後6時以降に吉澤さん(☎02663・77・6676)へ。

(有賀文香)